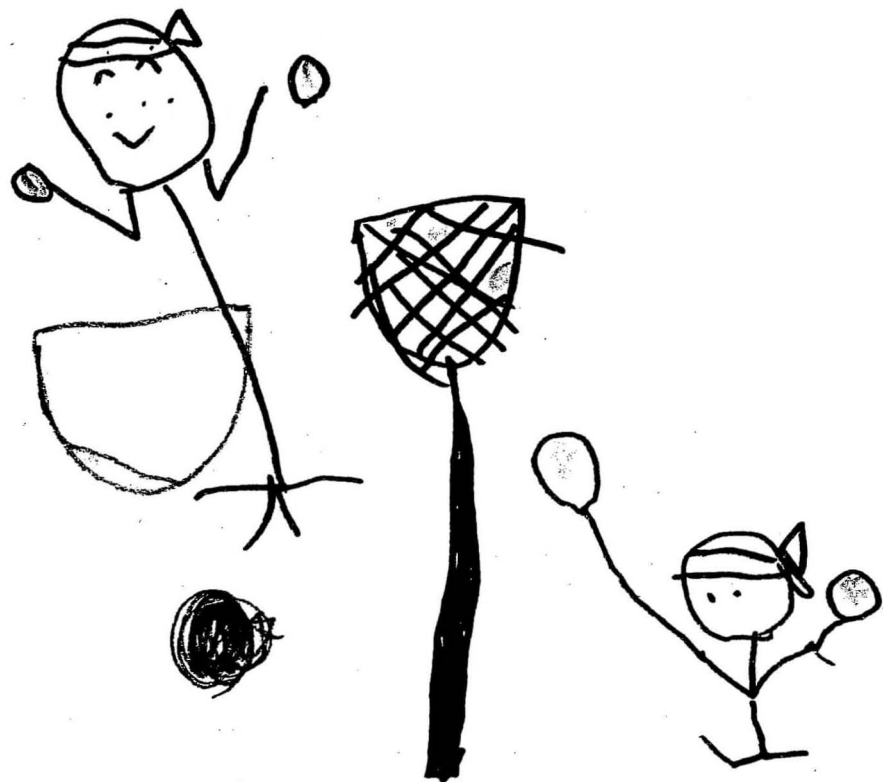


(4) 一人の子どもについての継続的記録

子どもたち一人一人の姿を追ってみると、幼稚園生活を通してだんだんと成長していく姿を実感することができる。私たち保育者は、子どもたち一人一人に応じた援助をしながら、この子はどのように成長してきたのか、これからの課題はどんなことだろうかと思いを巡らせながら保育に当たっている。

ここでは、子どもたちが「他」とのかかわりの中で自分らしさを発揮していく過程と保育者の援助の在り方、その時の保育者の思いについてまとめた。その際、今年度の研究の「自然」に限らず、「人」「もの」「自然」とのかかわりの中で自分らしさを発揮していく姿について挙げている。

1年次の研究から継続して記録している年長児Y児と、2年次からの年中児X児については、2～3年間で変容してきた過程と、本年度見られた自分らしさを発揮する姿を紹介していく。また、年少児のW児については、本年度、自分らしさを発揮していった過程を紹介する。



(ア) 「他」に興味をもって積極的にかかわっていくW児（年少児：女）

入園時

先生との出会いを喜び、「先生、おはようございます」と、元気よく登園している。「これ、したい」「あれ、なあに」と、様々な「他」に興味をもち、積極的にかかわろうとしている。

- 幼稚園にあるもの、いる人、何もかもが新鮮なのかな。楽しみをもって登園できるのはいいことだ！様子を見守りながら、援助をしていこう。

【保護者との連携】

- 園で生き生きと楽しむ様子を連絡帳や降園時を利用して話題にしていこう。

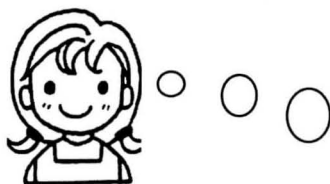


4月16日

「ぶらんこするよ！」

W児が「友だち」を「ぶらんこ」に誘う様子

- ぶらんこに乗って楽しんでたW児が保育室に戻ってきて、テラスから叫ぶ。
W「ぶらんこするよ！ぶらんこするよ！ぶらんこするよ！」
保「Wちゃん、誰に『ぶらんこするよ』って言っているの？」
W「お友だち！（私）ぶらんこしたいの。」
保「そう、じゃあ、先生がお友だちを誘ってみるね」
保「Wちゃんが『みんなでぶらんこをして遊ぼう』って言っているよ。ぶらんこしたい人は、先生と一緒にいこうか」
- W児とA児、B児、C児とで、保育者に押してもらいながらぶらんこに乗る。
保「Wちゃん、ぶらんこって面白いね」
W「うん、ぶらんこ大好き！」
保「Wちゃん、Aちゃんがずっと待っているから、今度は交替しようか」
W「・・・ぶらんこしたい」
保「うん、またぶらんこできるよ。今、Wちゃんずっと乗っていたでしょう。今度は、Aちゃんの番だよ」
W「・・・うん、いいよ」
保「Wちゃん、ありがとう。Aちゃん、Wちゃんが交替してくれたよ。うれしいね」



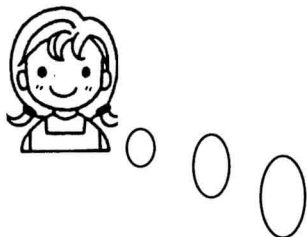
- 「みんなとぶらんこで遊びたい」「ぶらんこにずっと乗っていたい」という気持ちを受け止めつつも、順番があることを伝えていこう。
- ぶらんこの面白さを味わう姿に共感したり、友だちと交替できたことを褒めたりしていこう。

6月5日

「ママと一緒にいい！」

W児が「母親」と一緒に幼稚園で過ごしたいと訴える様子

- 母親の手を引っ張りながら登園する。
保「Wちゃん、おはようございます」
W「・・・おはようございます」
保「今日もいっぱい遊ぼうね。では、お母さん、行ってきます」
W「いや！ママと一緒にいい！」
保「え～、お母さん、幼稚園じゃ遊べないのだけど・・・」
W「ママがいい！ママ居て、ママ居て！」
保「じゃあ、ちょっと見てもらおうか」
- W児の母親の都合を聞き、しばらく幼稚園に残ってもらうようお願いする。
保「Wちゃん、お母さん10時からご用があるから、それまでは幼稚園に居てくれるって。よかったね。じゃあランドセルを片付けて遊ぼうか」
W「うん！」
- 時折、母親が居るか確かめながら、ぶらんこを漕いだり、シロツメクサを摘んだりして遊ぶ。
W「(私も)シロツメクサほしい。ママにあげるの」
保「そう。お母さん喜んでくれるといいね。シロツメクサたくさんあるね。花束にしようか」
- 約束の時刻になり、母親が帰ることを伝えようとじたんだを踏みながら、泣き叫ぶ。
W「いやあ～！ママと一緒にいい。ママ居て、ママ居て」
母「お仕事って言ったでしょ！じゃあ、もう今日は一緒に帰ろう」
W「いや！帰らない。ママも幼稚園(に)居るの！ママ居て！」
母「Wちゃん、いい加減にきなさい！」
保「Wちゃん、お母さん、今日はご用があるんだって。今日はお母さんと一緒に帰ってもいいよ。また明日いっぱい遊ぼうか」
W「いやっ！いやっ！帰らない。(私)遊びたい！ママ居て～！」
保「Wちゃん、今日はどうしてもお母さんは、帰らなくちゃいけない。また、お迎えのときになったらお母さんは、来てくれるよ」
W「いやっ！ママと一緒にいい！ママッ！ママッ！ママッ～！」
保「じゃあ、今日はWちゃん、お母さんと一緒に帰ろうか。また明日先生、待ってるね」
- 泣きながら、母親と一緒に幼稚園を後にする。



- 幼稚園の面白さを味わっている一方で、これまで母親と離れて園生活をがんばってきた姿を受け止めていこう。
- 保護者の不安な気持ちを受け止め、焦らず見守っていくこと、いつかまた必ず「行ってきます」と言える日がくることを伝えていこう。
- 都合のつくときは、W児の気持ちに寄り添って幼稚園に残ってもらうようお願いしていこう。

6月30日

「キノコスープ」

W児が「友だち」の刺激を受けながら「自然」とかかわる様子

- 雨上がりの園庭を見て、散歩に出掛ける。
W「先生、一緒にお散歩に行こう」
保「いいよ」
- 友だちがポリ袋に水とキノコを入れて「キノコスープ」に見立てて遊んでいるのに気付く。
W「Aくんが持っている『キノコスープ』が(私も)ほしい！」
保「じゃあ、Aくんにどこにキノコがあったのか聞いてみようよ」
W「Aくん、キノコ、どこにあったの？」
A「お家の近くにあったよ」
- ままごとハウスの周辺へ行き、保育者や友だちとキノコ探しをする。
W「見て！たくさんキノコを見付けたよ！」
A「ぼくもいっぱいだよ」
W「(私の)お母さん(は)今、何をしているの？」
保「そうねえ、今頃お家でお掃除をしているのかな。Wちゃんがいっぱい遊んで帰ってくるのを楽しみにしていると思うよ」
W「これ、いっぱい摘んで持って帰る！」
保「そう、お母さんもきっと喜んでくれると思うよ」



- 数日前まで、お母さんに幼稚園に残ってもらう日が続いたけど、安心して、幼稚園で過ごせるようになってきて、よかった！
- 園庭の「自然」に目が向きはじめているので、ポリ袋やカップなどの準備をしておこう。
- 時折、母親を思い出しながらもW児が幼稚園で楽しく過ごしている様子を伝えていこう。

10月16日

「秋の園庭で」

W児が秋の「自然」の中で「友だち」とかかわっている様子

- 友だちや保育者と木の実や草の実集めをする。
A「ほら、先生見て！」
保「何が入っているの？」
A「ドングリ」
保「ドングリさんのぼうしも入っているんだね」
W「私もいっぱい見付けた！」
保「Wちゃんもクヌギをたくさん見付けたね」
B「いいな。ぼくもほしい」
C「わたしもほしい」

W「もう無いよ」

保「みんなが見付けたからね。また明日、落ちてくるよ」

A「そうだね」

W「ほら、私、オナモミも持ってるんだよ。ひつつくんだよ」

A「・・・(ほしいな)」

保「Aちゃんもほしいの？じゃあ、「どこにあるの？」って聞いてごらん」

A「どこにあるの？」

W「こっちだよ」



12月21日

- クヌギやオナモミがある場所をよく知っているぞ！W児の気づきがみんなの刺激となるようにしていこう。
- 繰り返し自然とかかわる姿を大事にしていこう。

「どうしたら1番になれるの？」

W児が「友だち」とかかわる様子

- W児が勢いよく走って登園する。

W「先生！おはようございます！」

保「Wちゃん、おはよう。元気がいいね」

W「私、1番？」

保「あ～、それはどうかな」

W「Aちゃんがいる！Aちゃんが早かった。Aちゃん、おはよう」

A「おはよう」

W「Aちゃん、なんで早いの？」

保「Wちゃんが幼稚園に早く来ているのはどうしてって尋ねてるよ」

A「(私)早起きするよ」

W「へえ～」

保「Aちゃんは、いつもお母さんと一緒に歩いて幼稚園に来ているのよ」

W「え～！私、お母さんと自転車(で来ている人)だよ」

A「(私)歩くよ～」

W「そっかあ～、じゃあ私、もっと明日早起きする！」

保「Wちゃん、どうして1番になりたいの？」

W「だって、いっぱい遊びたいんだもん」



- 6月の頃と比べるとずいぶん成長したなあ。友だちと積極的にかかわる様子を今後も見守っていこう。
- 園生活に期待をもって登園できていることを家庭と共に喜んで、早めの登園に心掛けていることに感謝の気持ちを伝えていこう。

入園時からW児の姿を追って記録してきたことで、様々な「他」とかかわりながら、次第に幼稚園生活に慣れていき、時には涙を流しながらも一つ一つ成長していく様子を整理することができた。一つ一つの事例から保育者の援助の在り方や環境構成の工夫等についても見つめ直すことができた。

子どもたちが自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① 安心して過ごせる場としての幼稚園づくり

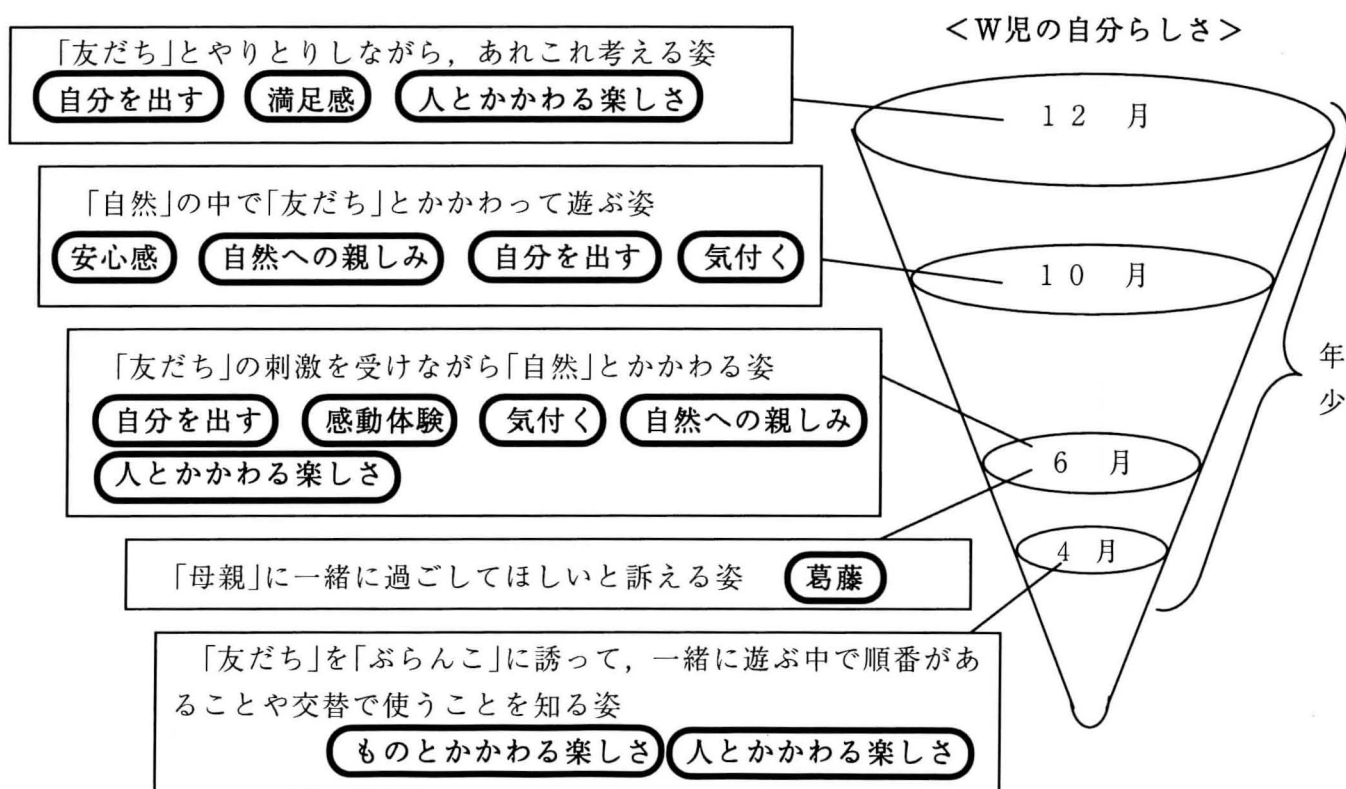
- 一人一人の思いを汲み取り、その子の思いに寄り添いながら保育を展開していくことで子どもとの信頼関係を築いていく。
- 降園時や連絡帳等を活用して幼稚園での様子や家庭での様子を語り合い、保護者との信頼関係を築いていく。

② 繰り返しの経験ができるように環境を整え、自信をもつことができるようにすること

- 「またしたい」「またやってみたい」と思えるような環境をつくり、一人一人の課題に応じた心地よい負荷を与えていく。
- できた喜びに共感していく。
- 子どもたちが味わった感動をほかの友だちの刺激となるようにしたり、家庭にも伝えたりしていく。

③ 友だちとやりとりする場や時間を工夫すること

- 子どもたちの興味・関心を大切にする。
- 保育者も遊びに加わりながら友だちと遊ぶ面白さに共感したり、友だちのよさや思いに気付いたりするような言葉掛けをしていく。



(イ) 気の合う友だちとかかわる中で、自分の思いを伝えられるようになったX児 (年中児：女)

これまでの姿

3年保育で入園してきたX児は、園生活を楽しみながらも、登園するとランドセルを保育者に手渡したり、靴を履かせてもらうのを待っていたりするなどの姿が見られ、家庭での生活経験の浅さが感じられた。また、「他」とかかわる中で必要な言葉が分からず、自分の気持ちを相手に伝えられない姿が見られた。保育者は、X児の経験の積み重ねを大切にしながら、言葉の背景にある思いをしっかりと捉えられるように努めた。

3学期の終わりには、自分の身の回りのことを自分でしようしたり、自分の気持ちを保育者や友だちに伝えようとしたりするようになっていったX児である。

4月(進級当初)

「新入園児とのかかわり」

X児が「友だち」とかかわろうとしている様子

- X児が登園後、靴箱で靴を履きかえている。新入園児の女児が登園してきた。

A「おはよう」

X「……………」(うれしそうに微笑むが、戸惑う姿が見られる。)

保「Xちゃん、Aちゃんが“おはよう”ってあいさつしてくれたね」

X「おはよう……………」

保「Aちゃん、このお友だちの名前はXちゃんっていうんだよ」

A「Xちゃん、おはよう」

X「おはよう……………」

- その後もあいさつを交わすが、A児の名前を覚えられずにいた。

保「Xちゃん、Aちゃんと今日もあいさつができてよかったね」

- 数日後の朝の登園後の靴箱で名前を呼び合いながらあいさつをする。

A「Xちゃん、おはよう」

X「おはよう、Aちゃん」

A「一緒にあとで遊ぼうよ」

X「いいよ、ブランコしよう！」

A「うん、ぶらんこしよう」



- X児が進級して新学期の雰囲気戸惑いながらも、年少のときと比べて身の回りのことを自分でしようとする姿や園生活を楽しもうとする思いを受け止め、必要に応じて援助していこう。
- 周りの友だちに興味や関心をもち、新しい友だちとかかわりたいと思うX児の気持ちを大切にし、自分の気持ちや考えを伝える機会をつくったり、経験させたりしよう。

7 月初旬

「私もやりたい」

X 児が友だちと一緒に楽しむ様子

- A 児と B 児が底に穴を開けたペットボトルにホースをつなげて水を出し、勢いよく出る水の様子を楽しんでいる。
A「先生、見て！消防車のシャワーみたいでしょ」
保「わあ～、いい考えだね！水が穴からいっぱい出ておもしろいね」
B「私もやりたい、私にも貸して」
A「もう少し待って・・・今使っているから」
(しばらくして)
A「はい、いいよ」
B「ありがとう」
- ずっと近くで見ていた X 児は、B 児が使っているホースを黙って奪おうとする。
B「しないでよ！今、私が使っているんだから」
X「・・・。私もやりたい」
保「X ちゃん、やりたいときは黙って使うんだったかな？」
X「貸してって言う・・・」
保「そうだね。B ちゃんに言ってみたらいいかもよ」
X「B ちゃん、貸して」

- 友だちのやっている遊びの良さや工夫に気付けるような言葉掛けをしていこう。
- 遊びの中で必要な言葉については、今までの経験を振り返りながら考えられるようにし、自分の気持ちを相手に伝える喜びをもてるようにしよう。

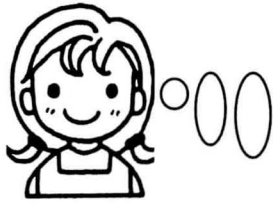


12 月初旬

「ラーメンづくり」

X 児が秋の自然の中で「友だち」や「保育者」と役割を分担して遊ぶ様子

- シートを敷いた X 児・A 児が保育者を呼ぶ。
X「先生、先生、こっちに来て。ピクニックしているの」
A「ラーメンをつくっているの」
保「今日は、天気も良くてピクニック日和ですね。おいしそうなラーメンもあるね」
X「先生、B ちゃんと麺の葉っぱを拾ってきてください。私はラーメンを混ぜておきます」
保「はい、分かりました」
- 拾った葉っぱを X 児に渡す。
X「ありがとう。じゃあ、先生、ラーメンづくりのお手伝いをお願いします」
A「おいしいラーメンをつくってください」
(保育者がカエデの葉っぱをラーメンに入れようとする)
X「先生、赤い葉っぱは入れちゃだめだよ。麺は黄色の葉っぱ（クヌギ）でしよう。赤の葉っぱは最後にチャーシューで入れるんだから」
保「そっか。赤色のカエデは最後にチャーシューで入れるんだ。じゃあ黄色のこの葉っぱは麺にしてもいいかな？こっちの茶色の葉っぱはどうする？」



- X児が遊びの中で率先しながら役割を分担し、こだわりをもって遊ぶ姿をじっくりと見守ろう。
- 葉っぱの色の違いを意識したり、子どもの思いが膨らんだりすることができるような言葉掛けを工夫しよう。
- 子どもたちの「～したい」という思いを十分に受け止め、遊びが盛り上がるように保育者も一緒に遊びながら、与えられた役割を果たしたり、見守ったりしよう。

一人の子どもを追跡していくことで、X児が遊びを通していろいろな友だちとかかわってみたいという思いや、友だちに自分の思いを伝えたり友だちの気持ちを聞いたりするやり取りの中で、必要な言い方が身に付いていく過程や言葉の種類が増えていく過程を追うことができた。また、年少児の時に安心して過ごせる場となった幼稚園で年中児となり、自分の知っていることやできることを新入園児に教えたり伝えたりしながら、自分に自信をつけていく過程を見ることができた。

子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① いろいろな友だちとかかわり、そのよさに気付くこと

- 保育者も一緒に遊ぶ中で、友だちのよさや遊びの工夫を紹介していき、クラスのいろいろな友だちに親しみをもてる機会を多くもつようにしていく。
- 自分がやりたい遊びを見付けて楽しんで遊んでいるか、友だちとどのようにかかわって遊んでいるかなど、子どもの様子をよく見ながら援助していくようにする。
- 行事や好きな遊びを通して、異年齢児と触れ合う機会を大切に、遊びの輪が広がるように保育者も必要に応じてアイデアを出していく。

② 自分の思いを伝えられるようにすること

- 子ども同士のやりとりを見守りながら、その子の思いを汲み取り、タイミングを見極めながら援助する。
- 友だちの中で自分の考えを言ったり、友だちのすることをまねたりしながら楽しく遊べるように見守る。必要なときには話に加わり、互いに思いを伝えることの大切さに気付くようにしていく。
- 降園時の活動などを通して、自分の思いを友だちや保育者に伝える機会を意図的につくるようにする。

「自然」の中で、気の合う「友だち」と遊ぶ楽しさに気付いて自分から誘ったり、率先してアイデアを出したりする姿

人とかかわる楽しさ

自分を出す

伝え合い

満足感

自信

「友だち」のしている遊びに興味・関心を持ち、自分の試してみたい気持ちを相手に伝える姿

人とかかわる楽しさ

葛藤

自分を出す

伝え合い

達成感

新入園児など、「新しい友だち」とのかかわりを持ち始めた姿

自分を出す

伝え合い

人とかかわる楽しさ

満足感

したい遊びを見付け、「友だち」とかかわって遊ぼうとする姿

自分を出す

満足感

人とかかわる楽しさ

「友だち」とかかわり、自己主張する姿

自分を出す

葛藤

「上靴」を自分で履き、自信をもつ姿

達成感

自信

「おらんこ」とかかわりながら幼稚園で先生と一緒に過ごす楽しさを感じる姿

安心感

人とかかわる楽しさ

< X児の自分らしさ >

12月

7月

4月

10月

9月

6月

4月

年中

年少

(ウ) 自分の思いを調整しながら、友だちと存分に楽しむようになったY児（年長児：女）

これまでの姿

3年保育で入園してきたY児は、入園当初は保護者と離れがたく涙を流す姿も見られていたが、だんだんと友だちとのかかわりを楽しむ始め、幼稚園生活を楽しむようになっていった。

年中児になると、新しく入園してきた友だちとのかかわりも楽しみ始め、自分の思いをうまく表現できないときは、保育者に相談しながら友だちに自分の思いを伝える方法を獲得していく姿が見られた。同じクラスの友だちだけでなく、年下の友だちにも優しく接することができるようになったY児である。

5月下旬

「チョコレート工場」

Y児が「友だち」とかかわっている様子

- 砂や土、水を混ぜ合わせてチョコレートづくりをしているところに、A児がやってくる。
A「何やってるの？」
B「ここは、チョコレート工場だよ」
Y「私は、チョコレートをつくる人よ」
A「楽しそう。私も仲間に入れて」
B Y「いいよ！」
- 自分の与えられた役割に納得がいかないA児。
A「私、（砂を）運ぶのばっかりいやだ……。つくる人になりたい」
B「だって、つくる人はいっぱいいるんだもん」
Y「運ぶ人がいないから、ねっ、お願いAちゃん」
A「え～、いやだ、私だって、工場の人になりたいもん」
- しばらく、なかなか解決策が見付からずに話し合いが続く。
A「もう、遊ぶのいやだ……。泣きそうになる」
Y「分かった！途中で仕事を交代したらどう？あと少し、Aちゃんは（砂を）運ぶ人で、その後、チョコレートをつくる人になったらいいよ」
A「……」
保「Aちゃん、Yちゃんがいいことを考えてくれたね。どうかな？」
A「本当にあと少し？」
Y「うん。そしたら、私が交代してあげるよ」
A「じゃあ、いいよ」
保「よかったねAちゃん。Yちゃん、いい考えを思いついたね！」



- 子ども同士で何とか解決しようと話し合いを進める姿をじっくりと見守ろう。
- Y児が解決策を考え出した姿を認め、A児の心にY児の思いが届くように投げ掛け、自分たちで解決できたという経験を大切にしよう。
- Y児がうまく自己コントロールして遊びを楽しんでいる姿を大切にしよう。

「私はそうは思わないけど・・・」

Y児が「友だち」とかかわっている様子

- 仲良しのA児と朝のあいさつを交わし、おしゃべりをしたり、追いかけて遊んだりして遊んでいる。
Y「Aちゃん、おはよう！」
A「あっ、Yちゃん。(ニコニコする)」
- いつも仲良しのB児が休みであることをA児と話題にする。
Y「今日、Bちゃん休みだって」
A「そうなんだ・・・Bちゃんが休みでよかったね」
Y「？」
- A児と話したことを保育者に伝えてくる。
Y「Aちゃんが、Bちゃん休みでよかったねって・・・」
保「えっ、どうしてそんなこと言ったのかな？」
Y「分からない」
保「Yちゃんは、どう思うの？」
Y「私はそうは思わないけど・・・」
保「その気持ちをAちゃんに話した？」
Y「(首を横に振る)」
保「Yちゃんが休みでよかったって言われたらどんな気持ちだろうね」
Y「いやな気持ち・・・」
保「そうね。そんなこと言ったらBちゃんが悲しいよってAちゃんに教えてあげられたらいいね」
- 保育者とY児、A児とでB児の気持ちを考えながら話をする。

- 素直に疑問に思ったことを保育者に伝えてきた姿を受け止め、相手の気持ちを考えることができるように一緒に話をしよう。
 - 友だちの言葉に疑問を感じたら、そのことを伝えることが友だちにとっても必要であることを知ってもらおう。
 - A児が発した言葉の中にある思いを受け止め、相手の立場になって考えてみるように話をしていこう。
- 【保護者との連携】
- 幼稚園で話し合ったことを降園時に話題にし、相手の気持ちを考えることについて、家庭でも同じように伝えたり、一緒に考えたりできるようにしていく。



12月中旬

「ドッジボールをしよう」

Y児が「友だち」とかかわっている様子

○ 朝からY児と女の子3人でドッジボールをしようと盛り上がっている。

Y「先生、ドッジボールしようよ」

保「4人と先生じゃ、ちょっと少ないね・・・」

A「じゃあ、ほかの子たちも誘ってこようよ」

YBC「そうだね！行こう」

Y「Dくんたち、ドッジボールやらない？」

D「やる、やる！」

Y「先生、男の子たちも（ドッジボールを）やるって」

保「やったね！もう少ししたら行くからね」



○ 主体的に一緒に遊ぶ友だちを誘う姿を見守ろう。

○ 自分たちで遊びを進める面白さを味わう姿を大切にして、保育者も仲間になって一緒に楽しもう。

入園時から3年間、Y児が様々な過程を経て自分らしさを発揮していく姿を追うことができた。入園当初のことを振り返ると、幼稚園生活を満喫するようになるための土台は、幼稚園が安心できる場所になることであると言える。

年長となり、友だちとのかかわりがさらに広がっていく中で、自分の思いをどのように表現したらよいか、Y児なりに思いを調整することを学んでいるのではないだろうか。

子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① いろいろな友だちとかかわり、友だちのよさを認めるようにしていくこと

○ 保育者も一緒に遊ぶ中で、友だちのよさや発見を周りに発信し、子どもたちが遊びへの興味や関心を広げて、友だちのかかわりを深めていけるようにする。

○ クラスで行う活動や異年齢児とかかわる機会を意識してもち、アイデアを出し合ったり、教え合ったりする姿を大切にする。

○ 保育者が子ども一人一人のよさを言葉にし、子ども同士がお互いを認め合えるクラスづくりをする。

② 自分の思いを伝えながら、相手の思いにも気付くようにしていくこと

○ 子どもたちが自分たちで思いを伝え合う姿を大切にし、自分たちでどこまで話し合いを進めることができるのかをじっくりと見守り、言葉掛け等の援助をする機会を見極める。

○ 自分たちで思いを伝え合い、納得がいくまで話し合う経験を大切に、自分たちで折り合いをつけることができた達成感を一緒に味わうようにする。

○ 降園時の活動などを通して、自分の思いを話したり、友だちの思いを聞いたりする機会を設ける。

